

あきらめなければできなさか上がり

浜松市立城北小学校 四年 奥田 愛

わたしは最初さか上がりができませんでした。さか上がりができなくて、友達にからかわれて悲しい思いをしたこともありました。だから、休みの日にいろんな公園の鉄ぼうで、数えきれないほど練習をしました。でも思うようにできませんでした。どの公園でもそうだけど、練習をしていると、わたしより小さな男の子がとなりの鉄ぼうにいつもやって来ます。そしてくるっとさか上がりをするのです。わたしはむかついではらを立てたり、くやしくて泣いたりしてしまいます。そしていつも練習をやめてしまっていました。

このままではいけないと思いました。夏休みに入ってから、アマゾンで鉄ぼうを買ってもらいました。家のリビングに鉄ぼうがきました。かべをけつてさか上がりができるようになりましたが、かべがないとできません。そんな時に、お母さんから「しゅくだいさかあがり」という本をわたされました。表紙のしよんぼりして泣きそうな男の子の顔が、なんだかわたしみたいだなと思いました。主人公のゆうたもさか上がりができないので、自分のことのように思えて一気に読むことができました。とくに、ゆうたが友達のさとしからさか上りのコツを教えてもらっているところはわたしの好きなおとこです。

「あごを引いて、鉄ぼうを見つづけることと、おへそを鉄ぼうからはなさない、この二つだけ。あとはあきらめず練習しろ。」

というおぼえやすい説明でした。ここを読むと、急にわたしもさか上りの練習をがんばりたくなりました。さとしの言葉通りに練習すると、わたしの手の豆がすごくいたくなりました。でも公園で、一人で

練習するゆうたを思い出して、もう一回がんばるぞと何回も練習しました。三十分くらいやっていたら体がポツポツと熱くなってきました。体の周りがあったかいわたで包まれているみたいでした。そしてふしぎだけど、だんだん練習が楽しくなってきました。その時、体が軽くなつてふわんと回りました。自然に体がくにゅんつてなっていました。わたしはうれしくてばねのようにぴよんぴよんしました。いつの間にか手の豆がつぶれまくっていて、グチヨグチヨになっていました。つぶれたトマトみたいでした。ピアノの先生が、ばんそうこうだらけのわたしの手を見て「愛ちゃんどうしたの？」と心配してくれるくらいでした。練習をやめないでよかったーと思いました。

ふりかえってみると、わたしに足りなかったのは、さとしのコツにもあった、「あきらめず練習する」ことだったんだなと思いました。わたしは豆ができるとすぐに練習をやめてしまっていました。でも、豆ができると手が強くなるのが分かりました。これからもあきらめないで練習をつづけることで、たくさん豆をふやして、いろいろなことに取り組んでいきたいと思います。

書名 しゅくだいさか上がり

著者名 福田 岩緒

発行所 P H P 研究所